

### <目次>

粉乳情報	全粉乳相場は堅調	… 2-3 頁
バター情報	欧州・オセアニア・米国 市場動向	… 3-4 頁
カゼイン情報	NZ 減産、相場は堅調推移	… 4 頁
チーズ情報	米国チェダー生産量過去最高	… 4-5 頁
ホエイ情報	米国産ホエイパウダー引き続き軟調、欧州産は若干上向く	… 5-6 頁
乳糖情報	米国産強含み、欧州産低調	… 6-7 頁
国内情報	都府県、依然として生乳減産傾向、ホクレンの生乳入札では価格高騰	… 7-8 頁
主要生産国の現行乳価		… 9 頁
欧州情報	乳糖フリー市場の拡大	… 9 頁
オセアニア情報	NZ 乳業 a2 milk 社、最大手 Fonterra 社と提携	… 10-11 頁
米国情報	生乳生産量及び在庫数量	… 11-12 頁
インドネシア情報	デンマーク・Arla 社、インドネシア ICBP 社との合併事業を発表	… 13 頁
出典		… 14 頁

## <粉乳情報>

### - 全粉乳相場は堅調 -

#### - 欧州 -

欧州産脱脂粉乳相場は落ち着いた動きを見せている。2月20日に開催されたEU政府介入在庫の放出入札において、前月の落札数量(1,864トン)を大きく上回る4,337トンが落札され、落札最低価格は前月をEUR 90/mt 下回りEUR 1,100/mtとなった。全体で3万5,465トンもの応札があった模様。脱脂粉乳需要者の大半は既に十分な在庫を確保していると考えられ、突発的な需要増加の見込みも無いことから、当面脱脂粉乳相場は横ばいに推移する可能性が高い。欧州産全粉乳相場は、EU域内、域外の全粉乳の需要増加もあり堅調に推移している。乳脂肪相場の反発も需要増、価格上昇の一因と見られる。2017年1月から11月までのEUからの輸出量は、36万7,535トンと前年同時期比で3%増加。

#### - オセアニア -

ニュージーランド(NZ)では、雨不足と暑い天気が続き、2018年1月の生乳生産量は前年同月比約5%減産、2012年以降で最低を記録した。2月に入りやっと降雨量が増えて生乳は増産となったものの、生乳生産のピーク時期は既に過ぎているため、雨量回復がもたらす影響は小さいと思われる。豪州は先月に続き天候に恵まれ、1月の生乳生産量は前年同月比で3.9%増と好調を維持している。

オセアニア産脱脂粉乳相場は先月の反転後は大きく上昇しておらず、ほぼ横ばいに推移している。これは欧州産脱脂粉乳の価格に引っ張られ、価格の上昇幅が抑えられているためと考えられる。一方で、オセアニア産全粉乳相場は大幅な上昇となった。世界的に底堅い乳脂肪需要が確認されている上に、最大の全粉乳輸出国であるNZの生乳生産量減が主な要因と見られている。最新のgDTの結果は下記の通り。

(2018年2月20日開催、同年2月6日比較)

脱脂粉乳: USD 1,832/mt FAS(船側渡し価格)、-5.2%

全粉乳 : USD 3,246/mt FAS(船側渡し価格)、+0.6%

#### - 米国 -

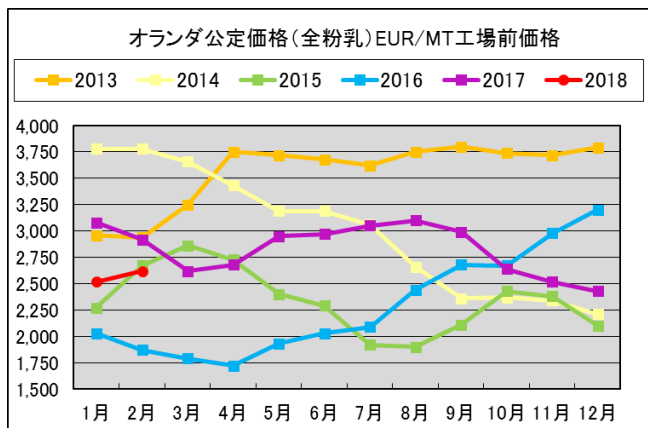
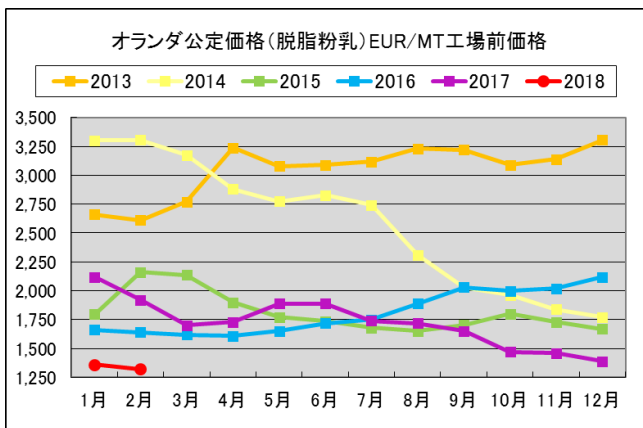
米国の生乳生産は依然好調で、2018年1月の生乳生産量は前年同月比で1.8%増産となった。

生乳生産量の増加要因は、好天に恵まれた事に加え、乳用牛頭数の年々の増加が挙げられる。

米国産脱脂粉乳の相場は、低迷するEU産の価格には及ばないものの、オセアニア産の価格と比較すると競争力を有している。

#### - 今後の展望 -

脱脂粉乳においては、EU政府介入在庫が未だ35万トン強と重い事から、脱脂粉乳相場は当面横ばいに推移するものと予想される。一方で全粉乳相場は、世界的な乳脂肪相場反転に加え、最大の全粉乳輸出国であるNZが生乳生産のピーク時期を過ぎて供給量が限られており、今後値上げ傾向になる可能性がある。最大の需要国である中国では、2018年1月の全粉乳輸入量が前年同月比で27%増と活発な動きを見せている。以上より各サプライヤーの供給余力があるうちにもものを確保する必要があると考える。



(2018年2月の粉乳取引価格)

EU産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) : USD 1,850 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT  
 EU産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,500– 3,900/MT CFR ASIAN PORT

オセアニア産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) : USD 1,950 – 2,200 /MT CFR ASIAN PORT  
 オセアニア産全粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) : USD 3,450 – 3,750 /MT CFR ASIAN PORT

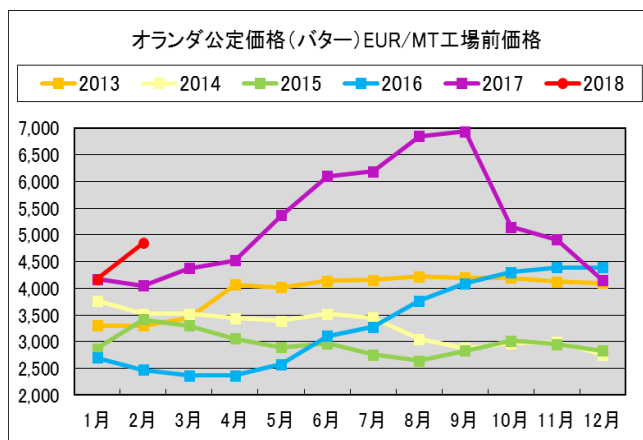
米国産脱脂粉乳価格(ADPI EXTRA GRADE) : USD 1,900 – 2,100 /MT CFR ASIAN PORT

<中村>

## <バター情報>

### - 欧州 -

2月に入りバター相場は急上昇している。2月21日に発表されたオランダ公定価格(工場前価格)はEUR4,850/MT、先月末に発表された価格よりEUR680/MTの上昇である。1月には過去数か月の相場から見ると比較的安値で緩やかに推移したため、それまで買い控えていた需要者からの引合いが殺到、相場は瞬間に大きく反発してしまった。年明けより各国で支払乳価を下げる動きもみられており、生乳生産量の減少も懸念される。欧州の脱脂粉乳介入在庫は、1月に1,864トン、2月に4,337トン、と漸く少しずつ放出されているものの、依然として37万トン以上の在庫があり、バター生産量が短期的に大きく伸びる要素も見当たらない。



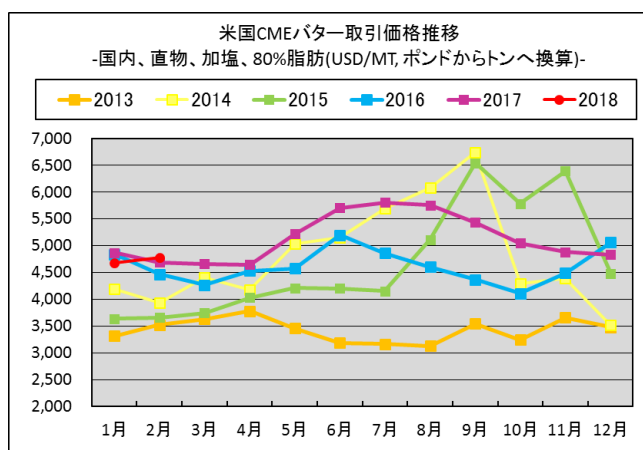
### - オセアニア -

2月のGDTオークションは、AMFは下落、バターは上昇する結果となった。1回目の平均落札価格はAMFがUSD6,581/MT FAS(船側渡し)と前回(2018年1月16日)比0.5%上昇、バターがUSD5,277/MT FASと前回は7.8%上昇。2回目の平均落札価格はAMFがUSD6,458/MT FASで前回は1.9%減少、バターはUSD5,334/MTで1.1%上昇した。

豪州の2017年7月～2018年1月の生乳生産量は前年同時期3.1%上昇している一方、2017年7～12月のバター生産量は33,589トンと前年同時期比-19.16%と大幅に減少している。USDAによると、2018年1～12月の豪州国内のバター需要も11万5千トンと前年比3.6%増と予想されており、豪州もバターに関しては最早輸入国となってきている。

### - 米国 -

2月の相場は、他産地の相場に合わせて上昇した。2017年1月から12月までのバター生産量は83万6千トンで、前年同期比0.2%増と前年とほぼ同じ水準となった。2018年1月のバター在庫量は101,549トンと1月の在庫量としては過去5年比較しても最も多い水準となっている。USDAによると、2018年1～12月の米国内のバター需要は87万3千トンと前年比1.9%増と予想されている。



2018年2月のバター取引価格

(換算レート EUR/USD1.23)

EU産バター価格	USD5,900～USD7,300/MT CFR ASIAN PORTS
NZ産バター価格	USD5,500～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS
豪州産バター価格	USD5,500～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS
米国産バター(無塩 82%脂肪)価格	USD5,500～USD6,000/MT CFR ASIAN PORTS

<吉田>

<カゼイン情報>

- NZ 減産、相場は堅調推移 -

カゼイン相場は、堅調に推移しはじめた。

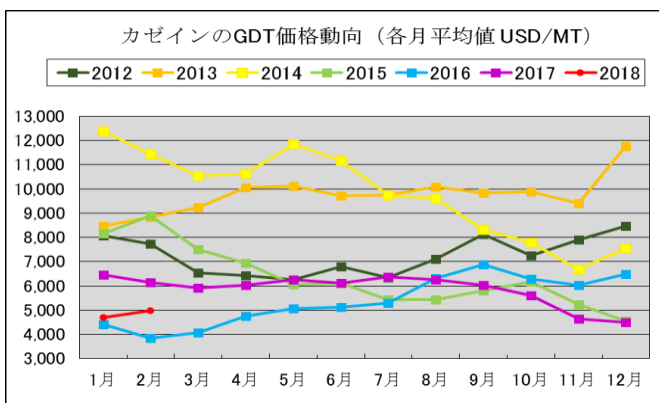
欧州においては、依然続く脱脂粉乳の在庫過多により、カゼイン生産は安定している。

一方で、主要産地である NZ の生乳生産量が予想よりも伸びていない上にカゼイン相場も低調なため増産意欲につながらず生産量は限られている。その結果、需要面では引続き落ち着いてはいるものの、カゼイン相場は下落基調から、反転、回復の気配を見せている。

今後については、乾乳期という季節要因により、NZ からの供給減が続くとすると、相場はさらに上昇することが予想される。引き続き、NZ の動きは注視していく必要がある。

- レンネットカゼインのGDT過去3カ月の落札価格 -

入札日	カゼイン(単位:MT)
2017年12月5日	USD4,879
2017年12月19日	USD4,506
2018年1月2日	USD4,419
2018年1月16日	USD4,709
2018年2月6日	USD4,943
2018年2月20日	USD4,980



<渡辺>

<チーズ情報>

- 米国チーズ在庫量 -

2018年1月末の米国チーズ在庫量は昨年比7%増となる約578,330トンであった。

例年は1月に在庫量が増加する傾向にあるが、2017年12月から1月にかけて在庫量は2,404トン減少しており、その前年も同じく減少している。米国の生乳生産量は引き続き好調であり、その大部分がチーズ製造用に回っている模様。

- 米国チェダー生産量過去最高 -

2017年の米国チェダー生産量は前年比4.1%増の約161万4,790トンで過去最高となった。

アメリカンタイプ(チェダー、モントレージャック、コルビー等)全体では、前年比で約6万3,600トンの増加。そのうち約90%を占める量がチェダー、残りがコルビーやモントレージャックであった。

2017年12月単月の生産量は前年同月比3.2%増、前月比7.1%増の14万3,963トンであり、1950年に統計開始以来の記録的な数字となった。特にチェダーの生産量が多い中西部における生乳生産量の伸びに因る影響が大きく、ミネソタ州(前年同月比11%増)やウィスコンシン州(同7%増)となっている。

一方、西部の生産量は前年同月比約2%落ち込み、カリフォルニア州では5.7%減の約16万1,250トンとなっている。(同州の12月の製造量は2002年に記録した約25万4千トンが過去最高となっている。)

### - 米国2017年チーズ輸入量減少 -

2017年米国へのチーズ輸入量は大幅に減少した。特に、チェダー等を多く輸入していたニュージーランド(NZ)からが顕著であった。2016年のNZからの輸入量はチェダー等合計で約1万7,786トンであったが、2017年は約6,695トンであった。

米国はNZやリトアニアからプロセスチーズ製造用途でナチュラルチーズを輸入していると思われるが、国内取引価格の沈静化、特にバレルの供給安定化、価格競争力増により輸入品に頼らなくても良い状況になったと考えられる。

尚2017年のCME現物取引のバレルの契約数はブロックよりも多い1,187件、数量にして約2万2,680トンであった。

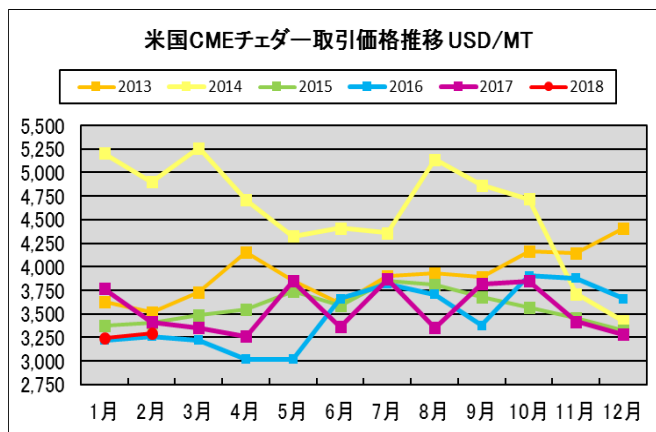
### - スイスからの輸出増 -

2017年のスイス産チーズ輸出量は前年比2%増となる7万1,600トンであった。輸出額は3.9%増の6億2,800万スイスフラン(約716億円、CHF/JPY=¥114)であった。輸出量全体の80%がEU域内向けに輸出されているが、EU域外への輸出も増加しておりEU域外向けは金額ベースで昨年比4.8%の増加となった。

一方で、スイスへの輸入量は前年比4.2%増の6万600トンとなっている。その内の83%がイタリアから輸入されており、残りはドイツやフランス等が占めている。昨年はドイツ産チーズが最も安価であったことから、ドイツ産の輸入量は前年比20.6%増、イタリア産は0.3%減、フランス産は10.7%減となっている。

### - 米国CME相場 -

2018年2月のCMEスポット相場は小幅な少々となり、2月26日時点でUSD3,294/MTまで上昇した。2017年1月と比較してUSD47/MTの上昇となっている。



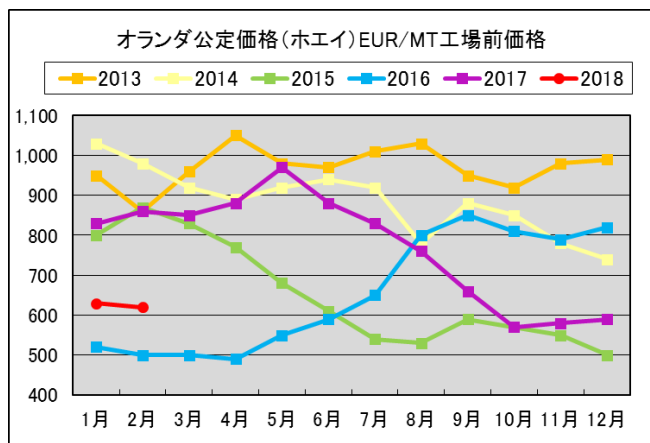
〈斉藤〉

## <ホエイ情報>

### - 米国産ホエイパウダー引き続き軟調、欧州

#### 産は若干上向く -

米国産ホエイパウダー相場は引き続き軟調に推移している。チーズ生産も引き続き好調で、ホエイパウダーは潤沢に製造されて在庫は重い。米国内の需要は弱く、在庫処理のための輸出が増加している。NASS(米国農務省全国農業統計局)によると2017年12月の食用ホエイパウダーの生産量は、前月比6.2%増、前年同月比2.1%増の約3万7千トンとなっている。



他方、欧州産ホエイパウダー相場は若干だが堅調になってきた。生産量は好調に推移しており、在庫量・需要も横ばいとなっているが、売手が市場に出す玉を若干絞っており相場が引き締まっている。なお買い手はホエイ濃縮物にシフトするケースも散見されている。

米国产 WPC-34 の相場は、横ばいに推移している。生産量も好調で、NASS によると 2017 年 12 月の WPC の生産量は前年同月比 7.0% 増の約 1 万 9 千トンとなっている。

但し、一部の製造者では WPC-34 よりも高タンパク質の製造を重視しているケースもあり、決して買い易い状況とは言えない。

<増田>

## <乳糖情報>

### - 米国产強含み、欧州産低調 -

#### - 欧州 -

欧州産乳糖相場は、依然低調である。供給面を見ると、好調な生乳生産とチーズ生産を背景に、ホエイと乳糖の生産も順調である。また需要面でも、脱脂粉乳のタンパク調整用途も依然として低調。季節的要因などからくる需要増や、その他目立った動きもなく安定的である。その結果として、相場も低位安定が続いている。

今後の乳糖の相場動向は、供給面では、春先の生乳生産増により生乳生産上昇が見込まれるものの、乳価が下落しているため、その上昇は限定的で生産量の大きな伸長に繋がるとは考えにくい。また需要面では、中国からの安定した育児用粉乳用途が見込まれてはいても、38 万トンにも及ぶ EU 政府介入在庫の影響により、脱脂粉乳のタンパク調整用途向け需要が強まることは考えにくく引き続き乳糖相場は低調なままであると予想される。しかし中長期的には、EU 政府介入在庫の過剰が解消さえされれば、タンパク調整用途需要が復活し相場上昇要因となることが予想される。

国別乳糖輸入量: 1 月時点での累計(単位/トン)			
	2017	2018	(%)
オランダ	578	673	16
フランス	68	111	63
ドイツ	932	527	-43
カナダ	258	153	-41
米国	3,813	4,208	10
豪州	0	0	-
ニュージーランド	228	328	44
その他	176	112	-36
合計	6,053	6,127	1

#### - 米国 -

これまで低調であった米国产乳糖は、ここにきて緩やかな上昇基調に転じている。生乳生産は引き続き好調でチーズ・ホエイ・乳糖の生産量も安定している。12 月のチーズ生産量は昨年対比 3.0% 増、乳糖生産量は 3.1% 増であった。Q1 を底値だと考えたユーザーが多く、この時期、引合いが強まったため米国内在庫は前月対比で 4.3% 減と在庫が減少する結果となった。これにより供給がタイトな状況のため、安値での SPOT 契約を望むユーザーがいても一部困難な状況が見受けられる。

今後についてであるが、年内を目途に一部メーカーにおいて更なる乳糖生産能力及び稼働率上昇が見込まれており、中期的に供給面がタイトになることは考えにくい。しかしながら期近の乳糖需要は安定している一方で、メーカーの在庫量が徐々に減少するため、無理に安値で販売しようとするメーカーが減っていくと考えられ、よって乳糖相場は反転し、強含んでいくと予想する。

**- 米国からの乳糖輸出量(2017年1月～12月) -**

1. 中国	67,870	トン
2. 日本	45,876	トン
3. メキシコ	42,708	トン
4. ニュージーランド	31,323	トン
5. オーストラリア	19,558	トン
6. インド	17,850	トン
7. シンガポール	17,661	トン
輸出量総計	360,873	トン

**- 米国の乳糖生産量と在庫量(2017年12月) -**

乳糖生産量	43,409トン	前年比 3.1%増
月末在庫	62,097トン	前年比 25.3%増

＜柴崎＞

**＜国内情報＞**

**- 都府県、依然として生乳減産傾向、ホクレンの生乳入札では価格高騰 -**

**- 生乳生産 -**

農林水産省が発表した2018年1月の全国生乳生産量は62万1,294トン。前年同月比0.5%増となり3ヶ月連続で前年を上回った。地域別では北海道が33万4,652トンで前年同月比3.2%の増加である一方、都府県は28万6,642トンで同比2.4%の減少となっている。

都府県の生乳生産の落ち込みにより、ホクレンの生乳道外移出は、2017年12月が前年同月比33.8%増の3万1,296トン、2018年1月も同比19.4%増の3万1,540トンと大幅に拡大した。

2018年2月21日、ホクレンの乳製品向け生乳3万トンを対象にした一般競争入札が開催された。脱脂粉乳・バター等向けとチーズ向け、生クリーム等向けに用途無指定で行われた。今後の需給が不透明であることも背景に、平均落札価格は1キロあたり税抜き101円27銭と大きく上昇。今回落札できなかった乳業者もあり、3月7日に行われる次回(2万トン)入札でも価格が高騰することが予想されている。

**- バター -**

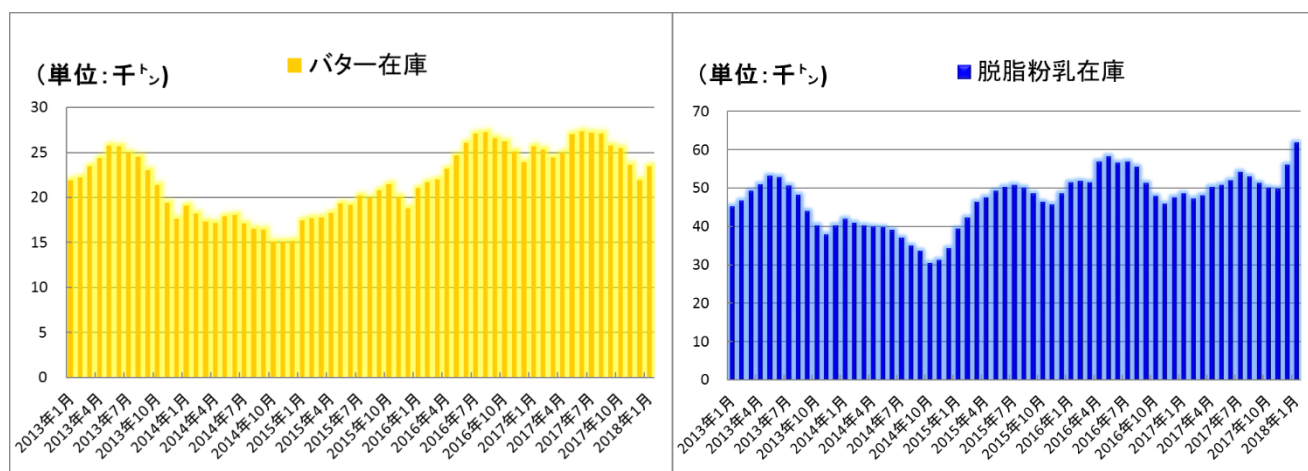
農林水産省が発表した2018年1月のバター生産量は5,914トンで前年同月比1.9%減、在庫量は2万3,553トンで同比8.2%減となった。農畜産業振興機構が2月15日に実施したSBS入札(2017年度分)では、入札数量2,500トンに対し、輸入業務委託に8者、2,308.4トンが応札し、応札分全量が落札された。落札率は92%で、落札平均価格は1キロあたり908.574円。次回SBS入札は2018年3月8日に実施される。

農林水産省は1月26日、2018年度乳製品輸入枠についてバター枠は1万3千トンに設定すると発表。今回設定した輸入枠数量を毎月分割する形でバター入札を実施していく基本方針としている。

**- 脱脂粉乳 -**

農林水産省が発表した2018年1月の脱脂粉乳生産量は11,466トンで前年同月比2.8%増、在庫量は6万2,038トンで同比27.6%増となった。農畜産業振興機構が2月22日に実施したSBS入札では、入札数量5千トンに対し、輸入業務委託に7者、3,745.4トンが応札し、このうち6者で2,702.0トンが落札された。競争倍率は0.75倍。売渡入札は12者が落札し、落札平均価格は515.789円となった。

農林水産省は 2018 年度乳製品輸入枠について、脱脂粉乳枠を 2 万7,000トンに設定。今回設定した輸入枠数量を分けて、脱脂粉乳入札は隔月での実施予定となっている。



生乳生産量(2018(平成 30)年 1 月)(単位:千トン)

	生乳生産量	牛乳等向け		乳製品向け	その他
			内業務用		
平成 29 年度	621	324	26	293	4.0
前年比	100.2%	101.2%	105.9%	99.8%	94.4%

2017(平成 29)年度、バターの需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	16,762	91.4%	15,614	99.2%	27,329	104.5%	4.6
第 2 四半期	12,598	87.6%	15,365	110.3%	27,062	101.7%	4.6
第 3 四半期	13,454	97.0%	27,170	110.5%	21,946	91.9%	3.7
第 4 四半期	17,314	101.9%	18,982	115.8%	25,478	104.1%	4.3
合計	60,128	94.6%	77,131	109.2%	25,478	104.1%	4.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入バター(民間)を含む

2017(平成 29)年度、脱脂粉乳の需給予想(単位:トン)

	生産量	前年比	消費量	前年比	在庫量	前年比	月数
第 1 四半期	32,644	97.2%	36,643	110.1%	53,700	94.6%	4.3
第 2 四半期	25,272	92.9%	35,887	97.2%	53,085	103.3%	4.3
第 3 四半期	30,261	101.5%	30,757	86.6%	56,089	117.7%	4.5
第 4 四半期	34,066	103.6%	46,039	130.2%	50,116	104.0%	4.3
合計	122,243	99.0%	149,326	105.8%	50,116	104.0%	4.3

在庫量はカレントアクセスによる輸入脱脂粉乳(民間)を含む

<帆秋>



## <主要生産国の現行乳価>

	円換算乳価※1	適用期間	直近の乳価
日本	¥99.57/ℓ	2017年12月	¥96.57/kg※2
ドイツ	¥53.97/ℓ	2017年12月	EUR39.96/100kg
オランダ	¥56.05/ℓ	2017年12月	EUR41.50/100kg
アイルランド	¥56.54/ℓ	2017年11月	EUR41.86/100kg
米国	¥41.83/ℓ	2017年12月	USD17.20/100ポンド (100ポンド=45.3592kg)
豪州	¥36.37/ℓ	2017/18年度	AUD5.60/kg MS(乳固形 kg あたり)
NZ	¥38.60/ℓ	2017/18年度	NZD6.40/kg MS(乳固形 kg あたり)

※1 生乳1リットルあたりに換算した概算価格。生乳比重は1.031で計算。

※2 総合乳価。用途別に異なる乳価の総加重平均の価格で、実際に酪農家に支払われた乳代。消費税抜き。

※3 為替レート EUR=¥131.00 USD=¥107.00 AUD=¥84.00 NZD=¥78.00

<出典> 日本:農畜産業振興機構 EU:European Commission 米国:CLAL 豪州:Murray Goulburn HP NZ: Fonterra HP

## <欧州情報>

### - 乳糖フリー市場の拡大 -

在ロンドンのリサーチ会社である Future Market Insights 社は、世界における乳糖フリー乳製品の市場規模が2017年末で106億ドル(約1兆1千億円)、10年後の2027年には178億ドル(約1兆9千億円)に達する見込みであると発表した。

2017~2027年の乳糖フリー乳製品の売上高年間平均成長率は5.3%増が見込まれている。オーガニック食品及びオーガニック飲料とは直接関係はないが、オーガニック製品の消費拡大が乳糖フリー乳製品市場の成長を後押ししており、また世界経済が好調なことも乳糖フリー乳製品といった価格の高めな商品の販売が増えている背景となっている。

世界の都市人口が増加していることにより乳糖フリー牛乳および乳糖フリー乳製品市場の拡大は加速すると予測され、また、乳糖不耐症の人口の多い地域での乳糖フリー乳製品の可能性についても期待されている。

アムステルダム住宅地エリアに立地するオランダ最大手の都市型スーパーにても、未だ種類は限られるが乳糖フリーの牛乳・ヨーグルトを目にする。乳糖フリー製品の販売価格について右表の通りとなっている。

表

商 品	価格 (€)
NB 乳糖フリー 低脂肪乳 (1ℓ)	1.79
NB 低脂肪乳 (1ℓ)	1.33
PB 低脂肪乳 (1ℓ)	1.09
NB 乳糖フリー 飲むヨーグルト (1ℓ)	2.09
NB 飲むヨーグルト (1ℓ)	1.39
PB 飲むヨーグルト (1ℓ)	1.01
NB 乳糖フリー 飲むヨーグルト・バニラ (750ml)	2.19
NB 飲むヨーグルト・バニラ (1ℓ)	1.35
PB 飲むヨーグルト・バニラ (1ℓ)	1.06

※ 2018年2月25日調べ (Albert Heijn)

<アムステルダム駐在 Lacto Europe B.V. 藤井>

## <オセアニア情報>

### - MG 社上半期決算発表 -

2月18日にMG社は本年度上半期(2017年7~12月)の決算発表を行った。今期の売上高は前年同時期比5.1%減の11億豪ドルで、牛乳の買い取り量減少の影響を大きく受けた。集乳量は上半期累計で約113万トンとなり、昨年同時期比約30%減少で今シーズンの最終集乳量は191万トンと予想している。全社的な業績は改善しており、純利益は前年同時期比53%増の1,440万豪ドル(約12億1千万円)であった。集乳量が30%減少したにもかかわらず、売上高は5.1%減少に留め、純利益を53%増と大きく伸ばしており、MG社の業績改善が確認されている。MG社CEOのAri Mervis氏は「今年度上半期も引き続き我々(MG社)にとって試練の時期となった。生産者に対し競争力のある乳価を提供できないために乳量が大幅に減った。経営陣はコスト削減と業績向上に焦点を当て引き続き取り組んでいる。Saputo社の傘下入りで、我々単独では成し得なかった生産者乳価の引き上げを実現できる」と述べ身売りの重要性を強調した。MG社は2018年度の乳価をA\$5.60/kgMS(乳固形1kgあたり470円)約と予想しているものの、この予想乳価は6月30日までのSaputo社への売却完了、また集乳量や乳製品価格が大幅に下落しないこと、AUD/USD為替レートの現行水準維持、更には主要市場における取引条件や取引環境の維持などを前提としている」と述べた。またMG社は、万が一Saputo社との取引が進捗せず、代替となる売却取引がない場合、同社は競争力のある乳価の支払いが出来ないかもしれないとも述べ、集乳量が更に減少するようなことがあれば、財政的な問題などを引き起しかねないと述べている。

### - NZ 乳業 a2 milk 社、最大手 Fonterra 社と提携 -

a2 milk社は、ニュージーランド(NZ)乳業最大手のFonterra社の業務提携を発表した。a2 milk社は商標権を持つ、腹痛などの原因とされるたんぱく質A1を一切含まず体により良いとされるA2ミルクのみを含む牛乳の販売が非常に好調であり、同牛乳を使用した乳製品及び育児粉乳などの販売も国際的に急速な成長を遂げている。上半期の売上高は4億3,460万NZドル(約339億円)で前年同時期比70%増加、純利益が9,850万NZドル(約76億8千万円)で前年同時期比150%増を記録している。一方、Fonterra社は国内外に巨大な販売ネットワークを持っている世界的な乳業会社であり、その販売網を活用してa2 milkのブランド力強化及び販売量を拡大していくものと思われる。提携の内容としては、NZ、豪州で生産されるA2ミルクを共通プールすることにより酪農家には一元平均乳価を支払い、Fonterra社はA2ミルクの安定確保が可能となり、今後この共通プールを徐々に拡大させていく予定というもの。Fonterra社はNZにおいてA2ミルクを使ったフレッシュミルクの製造、流通、販売及びマーケティングを独占的に行える。またFonterra社は東南アジアと中東へのa2 milkブランドの新規参入を支援して、その流通及び販売を独占できる権利を得る。また両社は、a2 milkブランドのバターやチーズなどの新商品を豪州、NZ、中国で販売する事を検討している。豪州ではVIC州にあるFonterra社Damnum工場であ2 milk社の製品を製造していくとしている。a2 milk社はFonterra社の後ろ盾を手に入れ、Fonterra社としては独占販売権を手に入れる事で両者にとって相乗効果のある戦略的業務提携だと思われる。今後a2 milkブランドは更に国際的に認知され世界的に売り上げが伸びそうである。

(為替レート: 豪ドル84円 NZドル78円にて換算 1千万円未満、1円未満は四捨五入)

### - 豪州生乳生産量 -

単位:百万リットル

	2018年1月の生乳生産量(前年同月比)	2017年7月~累計(前年同時期比)
NSW	87.7 (-6.5%)	684.4 (-1.9%)
Victoria	507.2 (+5.9%)	3,964.9 (+3.9%)
Queensland	32.1 (-8.3%)	246.7 (-5.0%)
South Australia	45.5 (+10.3%)	320.5 (+7.9%)
Western Australia	31.7 (+5.7%)	231.0 (0%)
Tasmania	89.7 (+5.7%)	560.4 (+6.4%)
<b>Australia</b>	<b>793.9 (+3.9%)</b>	<b>6,007.9 (+3.1%)</b>

- ビクトリア州の地域別生乳生産量 -

単位: 百万リットル

	2018年1月の生乳生産量(前年同月比)	2017年1月～累計(前年同時期比)
東 部	187.8 (+8.3%)	1,365.2 (+3.9%)
北 部	163.3 (+11.3%)	1,203.0 (+8.4%)
西 部	156.1 (-1.7%)	1,396.7 (+0.3%)
<b>ビクトリア州全体</b>	<b>507.2 (+5.9%)</b>	<b>3,964.9 (+3.9%)</b>

- 豪州品目別生産状況 -

単位: トン

	2017年12月(前年同月比)	2017年7月～累計(前年同時期比)
バター	6,114 (-8.0%)	33,590 (-19.2%)
バターオイル	1,050 (+7.0%)	5,315 (-24.1%)
チェダー	18,446 (+10.5%)	99,981 (+12.5%)
その他チーズ	14,215 (+4.2%)	79,885 (+2.5%)
脱脂粉乳	20,055 (-13.6%)	116,608 (-23.2%)
全粉乳	9,192 (+31.8%)	48,443 (+33.4%)
ホエイ、WPC	5,401 (+7.0%)	28,884 (+3.4%)

＜メルボルン駐在 Lacto Oceania Pty. Ltd. 松本＞

## ＜米国情報＞

- 米国チェダーチーズ生産量過去最高 -

2017年の米国産チェダーチーズの生産量は前年比4.1%増で過去最高となった。  
(詳しくは、チーズ情報もご覧ください。)

2017年のチーズのタイプ(種類別)生産量は下記の通り

チーズ(全体):	5,663,677トン(前年比2.6%増)
(うちアメリカンタイプチーズ)	2,228,198トン(前年比3.2%増)
(うちチェダータイプチーズ)	1,618,448トン(前年比4.1%増)
(うちイタリアンタイプチーズ)	2,443,089トン(前年比1.7%増)
(うちモザレラチーズ)	1,890,120トン(前年比1.2%増)

- 1月の主要23州生乳生産量 -

米国農務省(USDA)の発表によると1月の主要23州の生乳生産量は785万4,200トンで前年同月比1.8%増となった。先月発表の12月の生乳生産量は前年同月比1.1%増の771万8千トンに修正された。主要23州における1月の一頭当たりの平均搾乳量は約898キロで前年同月を約11キロ上回り、2003年に統計データを取り始めて以来1月単月の数字としては過去最高となった。主要23州における1月の平均乳牛頭数は874万頭と発表され、前年同月4万9千頭増となり、前月比では4千頭増となった。

**- 2017 年通年の全米生乳生産量 -**

2017 年通年の全米生乳生産量は 9,761 万トンで前年比 1.4%増となった。2008 年当時と比較すると 13.4%増。一頭当たりの年間平均搾乳量は約 1 万 415 キロで前年を約 74 キロ上回った。2008 年と比較すると 12.5%増。全米平均乳牛頭数は 939 万頭と発表され、前年比 0.7%増。2008 年当時と比較すると 0.8%増となっている。

**- 2018 年 1 月主要州別生乳生産量(前年同月比) -**

カリフォルニア州	1,583,098 トン	+2.2%	(+33,596 トン)
ウィスコンシン州	1,154,976 トン	+0.4%	(+4,540 トン)
ニューヨーク州	553,426 トン	-3.3%	(-19,068 トン)
アイダホ州	554,788 トン	+2.1%	(+11,350 トン)
テキサス州	478,062 トン	+5.8%	(+26,332 トン)
ミシガン州	427,668 トン	+1.2%	(+4,994 トン)
ペンシルバニア州	426,760 トン	+1.4%	(+5,902 トン)
ミネソタ州	379,998 トン	+0.8%	(+3,178 トン)
ニューメキシコ州	323,702 トン	+5.0%	(+15,436 トン)
ワシントン州	249,700 トン	+2.0%	(+4,994 トン)

**- 2017 年 12 月米国産主要乳製品生産量 -**

バター	77,309 トン	前年同月比 +4.2%	前月比 +15.5%
チーズ	494,860 トン	前年同月比 +2.6%	前月比 +3.0%
(うちアメリカンタイプチーズ)	196,557 トン	前年同月比 +2.9%	前月比 +7.5%
(うちイタリアンタイプチーズ)	212,018 トン	前年同月比 +0.9%	前月比 +2.4%
NFDM(食用)	74,137 トン	前年同月比 +5.4%	前月比 +14.7%
SMP	22,652 トン	前年同月比 -8.8%	前月比 +19.1%
ホエイパウダー	37,717 トン	前年同月比 +6.1%	前月比 +1.8%
WPC	18,965 トン	前年同月比 +7.0%	前月比 +1.9%
乳糖(食用、餌用)	43,442 トン	前年同月比 +3.1%	前月比 +11.3%

**- 2017 年 12 月末米国産主要乳製品在庫量 -**

バター	76,757 トン	前年同月比 +2.0%	前月比 +6.2%
チーズ	581,375 トン	前年同月比 +7.0%	前月比 +1.7%
(うちアメリカンタイプチーズ)	339,069 トン	前年同月比 +3.0%	前月比 +1.8%
NFDM(食用)	150,017 トン	前年同月比 +46.5%	前月比 +4.2%
ホエイパウダー	44,670 トン	前年同月比 +49.8%	前月比 -1.9%
WPC	38,314 トン	前年同月比 +39.6%	前月比 +3.8%
乳糖(食用、餌用)	62,173 トン	前年同月比 +25.3%	前月比 -4.3%

**- 2018 年 1 月末バター、チーズ在庫量 -**

バター	101,639 トン	前年同月比 +1.0%	前月比 +33.0%
チーズ	578,940 トン	前年同月比 +7.0%	前月比 +/-0%
(うちアメリカンタイプチーズ)	335,149 トン	前年同月比 +2.0%	前月比 -1.0%

＜ロサンゼルス駐在 Lacto USA Inc. 佐藤＞

## <インドネシア情報>

### - デンマーク・Arla 社、インドネシア ICBP 社との合併事業を発表 -

昨年末にデンマーク最大の酪農協 Arla 社が、インドネシア最大の華人財閥サリム・グループ傘下で消費財最大手インドフードグループの食品加工会社・インドフード CBP スクセス マクムール社(以下、ICBP 社)との合併会社を設立することを発表し、東南アジアの業界内では大きなニュースとして注目を浴びている。

Arla 社は東南アジアを注力地域の 1 つとしており、2020 年への成長の要とする狙いだ。新会社の名前は Arla Indofood Sukses Makmur 社とし、出資比率は Arla 社が 51%、ICBP 社が 49%と発表した。販路・物流については ICBP 社の既存ルートが中心になると見られているが、新会社でも乳製品の製造、営業販売、物流と一連の事業を担う。

インドネシアは、約 2 億 6 千万人と世界第 4 位の人口を抱える上、総人口の約 50%が 30 歳以下と東南アジア市場では主要国として存在感は大きい。Arla 社の Executive Vice President of International Business の Tim Ørting Jørgensen 氏は「インドネシアは東南アジアでの成功のためには重要な市場であり、同国での乳製品需要も伸びている。Arla 社としてインドネシアの消費者の健康に寄与する乳製品を提案していきたい。将来的には ICBP 社と共に更に多様な製品をマーケットに投入していきたいと考えている」とコメントをしている。ICBP 社は INDOMILK ブランドで飲用乳等を展開する IndoLakto 社を傘下に置いており、2014 年には仏食品大手のダノンの子会社 Danone dairy Indonesia の買収も行うなど、インドネシアでの乳製品事業の展開に力を入れており、両者の事業方針が合致し本合併事業に至ったものと見られている。

インドネシアの乳製品市場は、地理的優位性及び複雑な輸入制度とオセアニアへの関税優遇を背景に、ニュージーランド産及び豪州産が席捲している状況ではあるが、この欧州大手酪農協の Arla 社とインドネシア食品最大手のインドフードグループによる合併事業が市場にどう影響を及ぼすか注目を集めている。

<シンガポール駐在 Lacto Asia Pte. Ltd. 江本>

お問い合わせ先:  
株式会社ラクト・ジャパン  
webmaster@lacto-japan.com

出典:  
AGRA EUROPE 各誌  
Dairy Dairy Report  
Dairy Industry Newsletter  
農畜産業振興機構“畜産の情報”  
AMS Dairy Market News  
日刊酪農乳業速報  
Rice Dairy  
NZ Herald  
Stuff.co.nz  
食品産業網  
Weeklytimes  
USDEC Export Trade Data  
Global Trade Information Service  
USDA's Dairy Market News  
Australian Financial Review  
食品産業サイト  
経済日報  
東方ネット  
長三角乳業

#### ディスクレーマー

1. 株式会社ラクト・ジャパン(以下「当社」といいます。)は、「乳製品情報」(以下「当資料」といいます。)に記載されている情報については相応の注意を払っておりますが、その内容の完全性、正確性、適切性等について、いかなる保証も行うものではありません。そのため、当資料に記載されている情報・資料を利用するなどの、利用者の行為に関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。また、当記事に記載されている情報には、第三者が提供しているものが含まれていますが、当社は、その内容の正確性等については一切の責任を負いかねますので、予めご了承ください。
2. 当社は、事前に予告することなく、当記事の内容を変更等することがありますが、それに関連して生じたあらゆる損害等について、理由の如何に関わらず、一切責任を負いません。
3. 当社の許可なく当該情報の一部または全体を転載、二次使用すること、ならびに当該お客様以外に開示することは固くお断りいたします。